

新中地第 501 号

令和 4 年 3 月 18 日

中央区自治協議会

会長 佐藤 雅之 様

新潟市長 中原 八一

(担当 中央区地域課)

中央区 区ビジョン基本方針（案）について（意見聴取）

新潟市区自治協議会条例(平成 18 年条例第 74 号)第 7 条第 1 項第 1 号の規定により、
下記事項について貴自治協議会に意見を求めます。

記

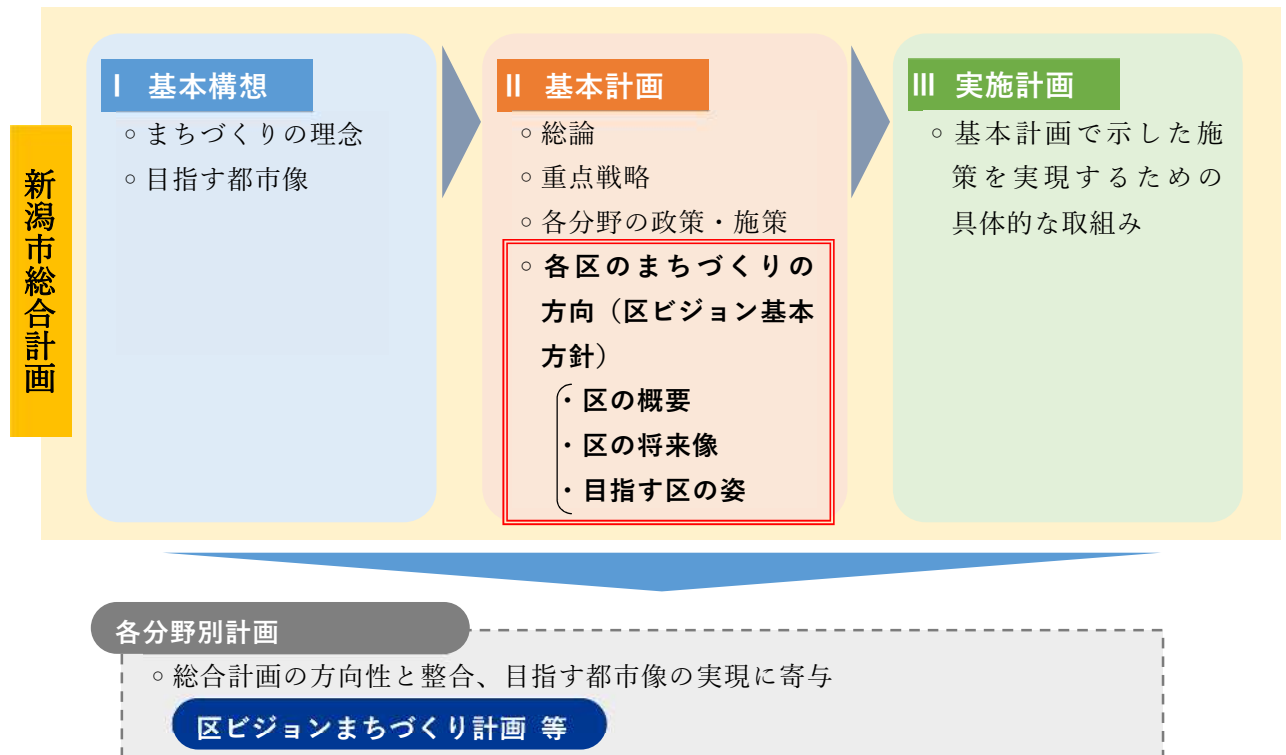
1 中央区 区ビジョン基本方針（案）について

中央区 区ビジョン基本方針（案）について

1 区ビジョン基本方針とは

市の最上位に位置づけられる「新潟市総合計画」の中で、区のあり方や方向性に基づき、「区の将来像」や「目指す区のすがた」等を示したもの。

【参考】次期新潟市総合計画（計画期間：令和5年度～令和12年度）



※区ビジョンまちづくり計画については、区ビジョン基本方針（案）に基づき、自治協議会のご意見も伺いながら R4 年度中に策定（計画期間：令和5年度～令和12年度）

2 中央区 区ビジョン基本方針（案）

別添のとおり

中央 区

にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす
活気あふれる拠点のまち



区の特徴

中央区は、新潟市の中で最も面積が狭く、全市面積の約5%にあたる37.75km²に、全市人口の20%を超える約18万人が暮らす、市内で最も人口密度が高い区であるとともに、通勤・通学等で区外からも多くの方が来訪し行き交う区です。

区内には、海の玄関口である新潟西港と陸の玄関口である新潟駅が立地しています。この新潟駅と万代地区、古町・本町地区を結ぶ「にいがた2km」を中心に、金融機関をはじめとする企業の本・支店や百貨店などの各種小売店舗、飲食店など多様な民間事業所が立ち並び、新潟の中心市街地を形成しています。

また、中心市街地を離れると、市役所や複数の高等学校などが立地する白山周辺地区をはじめ国の機関や県庁などの広域行政施設が集積する新光町・美咲町地区などがあり、区内各所に都市機能が集積されています。そのほか、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターや新潟スタジアム(通称:ビッグスワン)、新潟市民芸術文化会館(通称:りゅーとぴあ)などの広域集客施設も数多く立地しており、名実ともに新潟の顔として新潟をけん引しています。

区の概要

① 地理

中央区は、新潟市の放射状に伸びる交通軸の要に位置し、北は日本海に開け、中央には信濃川、東に栗ノ木川、西に関屋分水路、南に鳥屋野潟、さらに海岸線の白砂青松という水と緑に囲まれた地域です。

区内では土地の高度利用が進み、さまざまな都市機能が集積しています。その一方で、国の重要文化財である萬代橋やみなとまち新潟の面影を色濃く残す歴史的建造物など、伝統的文化を感じることでできるまちなみも存在しています。

② 産業

古町、万代、新潟駅周辺に代表される市街地は、商業集積がにぎわいを見せ、人・モノ・情報が活発に行き交う、本市の商業の中心となっています。近年は、IT関連企業の増加に伴い、IT関連企業集積地として企業の垣根を超えた新たな取組みも生まれています。

また、北前船の交流により江戸時代初めから技術を積み重ねることで、伝統的工芸品に指定された新潟漆器や、良質な水や水運を活かした酒、みそ、しょう油、こうじ、漬物などの発酵食品も有名であり、これらを活かした新たな取組みが進められています。



③ 交通

区内には、国道7号や8号など複数の国道の起終点があるほか、主要な県道も中央区を起点に複数路線整備されており、北陸自動車道、磐越自動車道、日本海東北自動車道の3路線へのアクセスも良好です。

鉄道は、上越新幹線や在来線3路線が乗り入れている新潟駅があり、陸の玄関口として公共交通の結節機能強化に向けた整備が進んでいます。また、区内へ新たな駅の設置も決定しています。

バスは、市内中心部や郊外に向けて多様な路線が運行されているとともに、新潟駅周辺は県内外主要都市への高速バスの発着地となっています。

海路では佐渡航路があり、信濃川においては、水上シャトルバスが運行されています。

区の将来像

にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす
活気あふれる拠点のまち

目指す区のすがた

賑わいと活気あふれ訪れたいくなる拠点のまち

○さまざまな高次都市機能*が集積した都心を有する区として、これまでの歴史の中で蓄積したものを集積し、各地域の成り立ちや特色を活かしながら、人・モノ・情報が活発に行き交い、住む人、働く人、学ぶ人、そして観光やビジネス等で訪れる人にとって魅力的で、にぎわいあふれるまちを目指します。

○美しい景観形成に努めるとともに歩きやすく自転車や公共交通で移動しやすい環境の整備を進め、まちなかの活性化に向けた回遊性向上を図ることにより、子どもからお年寄りまで誰もが出かけたいくなる利便性の高い、活気に満ちたまちを目指します。



共につながり安心して暮らせるまち

○少子・超高齢化の進展など、社会情勢が大きく変化するなか、区民や区内で活動する団体同士のつながりによる持続可能な地域コミュニティ活動を支援し、年齢や性別、障がいのあるなしなどにかかわらず、互いに支えあい、助けあい、誰もが安心していきいきと暮らせるまちを目指します。

○生活様式やニーズが多様化する中で、安心して子どもを産み育てる環境づくりを進め、家庭・地域・学校が連携を深めることで地域全体で子育てを支援するまちを目指します。

○自然災害や都市型災害などの発生時に、一人ひとりが適切な判断と行動をとれるような意識の向上や身近な地域の関係づくりを進め、誰もが安心して安全に暮らせるまちを目指します。



*高次都市機能 … 日常生活の圏域を超えて、広域的に多くの人々を対象にした質の高いサービスを提供する機能

区ビジョン基本方針

水と緑に囲まれた自然と都市が共存するまち

○都心部を流れる信濃川などの水辺空間や身近な緑を区民や事業者等とともに守り育てることで、一人ひとりが自然環境への愛着と誇りを持ち、自然と共生する美しくうおいのまちを目指します。

○市街地に多くの自然を残す鳥屋野瀧周辺や海岸沿いの松林などの豊かな自然を学びや体験、やすらぎの場として保全しながら利活用を図り、自然の大切さを感じられる憩いのあるまちを目指します。



歴史と文化を受け継ぎ発展するまち

○開港5港の一つとして古くから栄えた風情あふれるみなとまちの歴史・文化を受け継ぐとともに、食文化の魅力発信や新たな産業の創出・育成に取り組むことにより、さまざまな文化が融合した、未来につながるまちを目指します。

○新潟まつりをはじめ、各地域に伝わる歴史・文化に多様な世代が親しむことができる環境をつくることで、文化の継承やまちなみの保存に対する意識を高め、住む人々が地域を愛し、地域を誇れるまちを目指します。



*開港5港 … 安政5(1858)年に締結されたアメリカなど五ヶ国との修好通商条約で開港することが定められた神奈川(横浜)、箱館(函館)、長崎、兵庫(神戸)、新潟の5つの港のこと。